

ウルシワ谷～ACA 祖母山群の沢～

【報告者】I 藤

【日時】2017年6月11日（日）【天候】小雨のちに晴れ

【参加者】SL ダニー、I 藤、(会員外2名 [CL] M さん [AD] T さん)

《コースタイム》

6:50 駐車場-7:15 入溪-10:00 落水滝谷 1000m付近-12:30 九合目小屋

宮原コース 13:30 1573P-13:52 1402P-14:35 1026P-15:20 駐車場

《 報 告 》

「九州の沢と源流」の著者、吉川満氏によると、ウルシワ谷は、初級中級の沢と掲載されています。

前日の「クマガ谷」の沢登りでは、遡行時間はおよそ7時間、累計標高2000mで体力の消耗を感じていました。2日目についても正直なところ、自分の身体は疲労感や筋肉痛が残っておりまして。また前夜の雨で沢の増水の心配もありながら、小雨の中緊張も感じながらのスタートとなりました。

しかし、その心配をよそに、もみじや旅館奥の駐車場をベースに奥岳川の右岸に沿って歩いて行きます。入溪地点は、鉾山の碎石地を横切って黒金尾根登山道に向かって30分程で到着しました。カシミール地図を確認しましたが、なかなか分かりづらいものです。

ゴーロ帯を10分程進むと、花崗岩の大スラブ「トモエム落とし」という50m程の巨大な滝がありました。滝を過ぎると、ナメと釜が三か所ほど連続して現われます。まさにウォータースライダーです。ヤマメも住んでいる溪相で、ナメは美しく楽しませてくれます。水際は滑りやすいので、積極的に川床の岩盤を歩くとよいです。また、ナメを滑る際には、釜の構造にも観察が必要です。



ナメを過ぎると、乾いたゴーロ帯を直登して行きます。T氏曰く、例年よりも水量は少ないということで残念な様子が伺えました。しかし、私にとっては、登りやすかったです。高巻きについては、フィックスロープを張るなどの危険な箇所は特にありませんでした。

標高1000m付近のところにザックをデポし、左に数m入って行くと、「落水谷の滝」といった、40mの滝が現われ、水がさらさら流れています。私は見ているだけで充分楽しめました。この滝をトラバースしてしまうと「落水谷」という沢となり、難易度が上がってし

まうので要注意です。デポしたザックの位置に戻り、倒木の多い方向がウルシワ谷となります。

ゴ
ー
ロ
帯



ここからも乾いたボルダリングのような大岩が続き、長い距離をどんどん登って標高を上げていきます。ゴーロ帯を過ぎると、上流部の核心部といえる 5mのチョックストーンの大岩が現われ、ここで初めてロープで確保をして、登攀しました。M氏は、まずは巨石の割れ目にハーケンではなく、ペッカーといった中サイズのピトンをハンマーで打ち付け設置し、スリングでタイオフをし、そのスリングに足を引っ掛けて、それぞれ順に登攀を開始します。ダニーにリードをして頂き、ランニングビレイとしてカムを挟みカラビナにロープを通過させます。セカンドは私でしたが、タイオフしているスリングに足を引っ掛けて頂き（本来なら自ら引っ掛けるはずですが・・・）中間のカムは回収して良いとのことでしたので、岩から取り外し、自分のビレイループにカラビナを掛けようとしたところ、カムだけが真下に落下してしまいました・・・まさに痛恨の痛みです！！（滝壺など場所によっては紛失するところでした・・・狭い穴は窮屈で、正直、身動きが取れにくかったです。）カムの使用にもまだまだ習熟が必要だなあと感じました。後日、T氏は、空身で登



核
心
部
の
チ
ョ
ク
ス
ト
ー
ン

ってメンバー全員分のザックを引き上げれば、狭い穴に挟まらず余裕にすり抜けることが出来たそうです。

落ち着きを取り戻しながら、確保地点まで這い上がりました。目の前の大岩を使用し、スリングを二重にして確保をして下さっていました。しかし、万一すっぽ抜けることもあります。立ち木は、利用頻度は高いようですが、周囲には潤れているものばかりでした。他の自然物のビレイポイントとして、チョックストーンにタイオフをして掛ける方法もあるということも教わりましたが、上に動かないか強度を必ず確認する必要があります。

核心部を過ぎるとガレ谷となって現われてきました。碎石したばかりと思われる岩や石が一面に散乱していて、まるで鋭利な刃物のような感じです。岩屑を崩壊させない

よう静かに押さえつけるように、足を置くことに意識をしました。後続はM氏、ダニーの順序で、間隔を1m以内に詰め、加速がつく前に落石を止めることができるとのこと

す。サポートをして下さったおかげで、最悪の事態を未然に防ぐことが出来ました。

九合目小屋付近の水場が近くなってくると、ガラスの破片や食器のかけらなどが出てきました。ここからは、私の順番は最後尾でお願いし、小屋まで無事に到着することが出来ました。

時間の都合上、下山コースは、山頂を踏まずに宮原コースとしました。

下山道は、前夜の雨でぬかるんでおり、派手にシリセードをしてしまいました。全身の筋肉疲労なども考慮した上で、今後はストックの準備も必要です。転ばぬ先の杖とはまさにこのようなことでしょう。

気を取り直しながら、T氏から様々なお花も教えて頂きました。「オオヤマレンゲ」は有名ですね。それ以外にも満点星にも例えられる白いつぼ型に垂れ下がっている「ドウダンツツジ」といったお花であったり、「シロモジ (クスノキ科)」、「笹の花 (イネ科)」、「つがの木 (マツ科)」そして「マムシ草 (*球根には毒性が強いので注意)」など初めて聞く言葉に聞き慣れず、何度も聞いて、(失礼しつつも) 見て楽しむことが出来ました。

2日目も上り下りの累計標高 2000m には、疲労感もありましたが、何よりメンバー全員がケガなく無事に下山出来、様々なサポートして下さいました事、M氏、ダニー、T氏に、有難く深く感謝いたします。



《概念図あるいはルート図》



